



こころの中を見つめよう 博愛を広げるために

2011-2012 年度 RI テーマ

RI 会長 カルヤン・パネルジー

地区ガバナー 大澤 徳平



海南東ロータリークラブ

ROTARY CLUB OF KAINAN EAST

RI District 2640 Japan

第 1695 回例会

平成 24 年 3 月 12 日(月)

12:30～ 海南商工会議所 4F

I.D.M 報告

1. 開会点鐘

2. ロータリーソング 「それでこそロータリー」

3. 出席報告

会員総数 59 名 出席者数 42 名

出席率 71.19% 前回修正出席率 76.27%

4. 会長スピーチ

会長 田村 健治 君

皆さん、こんにちは。昨日、東日本大震災からまる一年、被災地へエールを送るイベントが各地で催されました。テレビは一日中それらと現状を伝え、いかに大きな災害であったかを我々に知らしめました。「後悔先に立たず」と言いますが、想定外だったとはいえ、あの時こうした備えをしておれば、あれ程多くの命が失われずに済んだのにと伝えられています。その備えですが、私の保存している資料の中に、アメリカのオバマ大統領の演説に関する興味ある記事があったので紹介します。

今から約 3 年前、2009 年 1 月 20 日にオバマ大統領の就任式が行われた際、その類まれなる演説力が話題となり、日本でも就任演説に関する多くの書籍や特集が組まれました。それ以降も、何かと注目を浴びるオバマ大統領の演説。先月 1 月 24 日には大統領 1 期目最後の一般教書演説が行われ、今年の施政方針が打ち出されました。経済を始め、製造業やエネルギー関連、インフラ、外交安保戦略に関わることなど多岐に渡る内容です。これに関する日本での報道においては、ご存知の通り、不況に苦しむ中間所得層を重視し、中間所得者層への減税・富裕層への増税、労働者の技術向上など経済再生に取り組む姿勢を鮮明にしたことなどを大きく報じました。しかし、それだけではありません。オバマ大統領は、インフラ改善計画について「再建しなければならない社会基盤は沢山ある」と発言。大恐慌時代に取り組んだ政策（ニューディール政策と

思われる)を引き合いにし、様々な公共投資が当時の労働者だけでなく今日の事業にも恩恵を与えていると述べ、インフラの再構築、つまり大規模な公共投資を行う旨も明確に打ち出していたのです。では、日本のインフラ政策についてはどうなのでしょう。世界総陸地のうちのわずか 0.25%とごく小さな国土の日本、しかし台風・地震などの自然大規模災害発生率は世界トップクラスです。また、昨年の震災後から、より注目を集めている大規模な避難訓練も首都を中心に度々行われています。ところが、消防庁による昨年 12 月の発表には、災害時に重要な防災拠点となる全国の公共施設等(東北 3 県を除く)について、その 4 分の 1 には耐震性がないと明記されているのです。これが、民間の会社施設・マンション等の住宅における耐震性の有無となれば極めて低い数値が出るでしょう。また、高度成長期に大量に整備された橋やトンネルなどのインフラはすでに老朽化しており、一斉に更新期を迎えます。そうであればなおさら、国を挙げてインフラ整備・投資を行う時期にまさに差し掛かっているのではないのでしょうか。ちなみに、オバマ大統領の一般教書演説について報道した大手新聞 5 紙、各々演説内容を網羅的に書いているものから個別事項を載せているものまで様々ですが、雇用にも 繋がる非常に重要な「建設」や「インフラ再構築」という内容は、驚くことに全紙において記述がありませんでした。私たちを災害から守るための政策に加え、情報とはなんぞやという問題にも本気で考え、取り組んでいく必要があるようです。

5. 幹事報告

幹事 山畑 弥生 君

○例会臨時変更のお知らせ

田辺東 RC 3 月 28 日(水) → 3 月 28 日(水)

12:30～ ラビーム白浜ゴルフクラブ
(職場見学)

6. 委員会報告

○親睦活動委員会

委員長 中西 秀文 君

4 月 1 日の家族会のご参加よろしくお願いします。

○社会奉仕委員会

委員長 魚谷 幸二 君

4 月 15 日に例年のおとり、海南たんぼの会との交流会を開きます。皆さんの参加よろしくお願いします。また、書き損じハガキやポケットコインのご協力もお願いします。

四つのテスト 言行はこれにてらしてから

- ①真実かどうか ③好意と友情を深められるか
- ②みんなに公平か ④みんなのためになるかどうか



事務所 〒642-0002 海南市日方 1294(海南商工会議所内)

電話(073)483-0801 FAX(073)483-2266

会長: 田村 健治 幹事: 山畑 弥生 SAA: 岩井 克次

<http://www.kainaneast-rc.jp>

E-mail: info@kainaneast-rc.jp

7. I.D.M 報告

テーマ「これでいいのか海南東ロータリークラブ」

元気を回復、活性化するためには

○1 組

発表者：寺下 卓君

平成 24 年 1 月 25 日に「美登利」で開催しました。出席者は 9 名です。また、資料として、年度別の会長・幹事・入会者一覧、会員数の推移について、当クラブの歴史を振り返り、これまでの活動について、話を聞きました。全体的には、当クラブについて、親睦、社会奉仕、国際奉仕、職業奉仕、新世代の活動など、バランス良く、時の会長、幹事、役員、各委員長はじめ、メンバーが本当に熱心に取り組んでくれている。1975 年 7 月 14 日の設立以来の家族会、新春、各例会、多くの親睦会の活動、清掃活動やタンポポの会などの支援、海外クラブ（韓国、台湾、フィリピン）との交流、WCS など長く続けてきています。この他、国際大会の参加、記念事業の実施、また、ガバナークラブとして取り組んだ地区大会など、語り尽せない歴史があり、これらの思い出や苦労話が出ました。会員数については、創立時 25 人でスタートし、ピーク時は 2005 年の 74 名で、これまでの平均で 62 名となっている事、創立から 10 年で会員数が 60 を超え、その後 25 年間 70 人前後の会員を維持してきました。最近では退会者もあり、ここ 4～5 年で少し減少していますが、同時に若い新会員の人も加わり、クラブの活動そのものは、伝統を受け継いでいる。地区のゴタゴタや景気が悪い事もある。世の中全体が震災もあり、活気がなくなっている感があるように思います。クラブとしては、こんな中、新会員の若い人たちにもっと活動に参加してもらい、親睦を深め、新たな仲間を増やしていってほしい。また、ロータリーが元気を出していくため、当クラブから再びガバナーを声もあり、宇恵さんあたりに頑張ってほしいと皆で要請しました。

この日の参加メンバーの構成もバランスよく、終始、和やかに、かつ有意義な話で、入会間もない特に重光君が初参加という事で、参加者全員が認める格調高い IDM になりました。最後にご参加の皆様に感謝して報告を終わります。

○2 組

発表者：上野山 雅也君



平成 24 年 2 月 4 日（土）、「おおぎや」で開催しました。出席者は 8 名で、まず、最初に「何が悪いのか」とう意見で口火を切って IDM がスタートいたしました。出た意見を發表いたしますと ①他クラブに比べて、年齢層の構成がうまくいっている。

運営はうまくいっている。②人数的にも人材的にも（資質は別として）優れた方が多い。③委員会別に IDM 形式で、食事会的に実施し、委員が何をすべきかを植えつけたら良い。④入会年度の若い方は、地区大会に参加要請をし、RC を理解してもらう。⑤ロータリーの意識を高めるのは、個々の気持ちの持ち方であ

る。休んだら他クラブへメーキャップに行くくらいの思いでいて欲しい。

余談ですが、ある先輩が、最初から歳のことを妙に気にして、お墓の話であるとか、死後の世界であるとか、「??」の話で盛り上がっていました。

また、さすがチャーターメンバー楠部さん、ロータリーの友 1 月号 12 ページ「ロータリーの長期計画から戦略へ」を読んでおけば、今後のロータリーの方向性、及び理想理想像が理解できるとのこと。

最後に会長経験者数人にチャーターメンバーを加えた諸氏の IDM であり、久しぶりに充実した話し合いができたと感じました。

○3 組

発表者：小久保 好章君

はじめに、①定款細則を読み、ロータリーを理解するように努める。役員さんしか持っていない定款細則を皆に配布する。（配る時に先輩から一言添えていただく…研修委員会）②会長スピーチや、卓話の時に私語が多い。ゲストに失礼ではないか。（まじめに聞きましょう）③会員増強の前に、ロータリーとは何か、知らしめる啓蒙活動が必要である。（広報活動）④クラブで行事を増やす…主席率が UP するように願います。積極的に参加するように。⑤会員卓話を増やし、お互いを理解し合う。⑥携帯電話は、マナーモードか OFF にする。



○4 組

発表者：岸 友子君

平成 24 年 2 月 4 日（土）に「美登利」で開き、出席者は 8 名でした。海南ロータリークラブは、昨年退会者を多く出したが、海南においては頑張っているクラブである。入会者にはフォロー会員をつけて退会しないようにサポートする。次年度の理事メンバーは、ニューメンバーが多いのでエレクトの花田さん始め、古いメンバーが毎月研修してロータリー教育している。野球部など、同好会で親睦を図り、ロータリーの良さを知ってもらう。国際大会に多く参加されている花田さんから、世界のロータリーを知るためにもぜひ参加するようにとの要請もありました。



○5 組

発表者：三木 正博君

平成 24 年 3 月 12 日（木）に「美登利」で開催しました。出席者は 6 名でした。

①台湾クラブ様にぜひ来和して頂くようにしてみてもいいのでは？ 3.11 の震災で大変お世話になっている事ですので。②国際大会に多くの人にご参加して戴く様に。③IDM の委員会を年 3 回位、開催できれば、いろんな面で会員同士がもっと親密になるし、又、町の活性化にも繋がるのでは。補助も出ることです。④いつもの話ですが、例会の席順の話も出ましたが、これに



ています。地元、シンコール・ロータリー・クラブの会員たちが、このワークショップの主催に加え、HIVに感染した恵まれない女性や子供たちのための栄養補強剤の配給や、これら母子たちの病院への送迎を行っています。

世界各地で活用されているグローバル補助金

HIV 予防のワークショップは、未来の夢試験地区である第 5170 地区が実施した複数のグローバル補助金活動の一つです。このほかにも、グアテマラとフィリピンの病院への医療機器の寄贈、ベリーズの小学校へのトイレの設置、ウガンダでの「Adopt-a-village (村全体支援)」プロジェクトなどを実施しました。

グローバル補助金によって、地区の目標でもあるロータリー重点分野の支援を効果的に果たすことができる、と同地区のロータリアンは口をそろえます。グローバル補助金プロジェクトへの参加の恩恵は、それだけではありません。「地区内のクラブが新しい補助金に関する研修を受け、その内容を理解していくにつれ、小さなクラブがほかのクラブと協力して、もっと大きく持続可能なプロジェクトに挑戦するようになりました。未来の夢計画の下では、『大きく考えよう (Think big)』とロータリアンに呼びかけています」

オーストラリアの科学者とドイツの学友会に学友賞が贈られる



写真上: ジョン・スカーリットさん(後部左)。安全な飼料で豚を育てるプロジェクトを通じて、疾病を予防しています。インドネシアにて。

2011-12 年度学友人道奉仕世界賞の受賞者として、オーストラリア、ビクトリア州の第一次産業庁副長官を務める研究科学者、ジョン・スカーリットさんが、ロータリー財団管理委員会により選ばれました。カーリンフォード・ロータリークラブ

の推薦により 1983-84 年度国際親善奨学生として米国ミシガン大学に留学したスカーリットさんは、現在、ハンプトン・ロータリークラブの会員です。授賞式は、バンコクで開催される RI 国際大会中、5 月 8 日に行われます。「ほかにも多くの優れた候補者がおられたと思います。私のような者がこのような賞をいただけたことを、大変光栄に思います」

これまで 30 年間、スカーリットさんはインドやインドネシアなどのアジア諸国およびアフリカ諸国で、農業、医学、環境、行政の問題を幅広く扱い、政府の主要な公共政策の立案に携わってきました。1250 人の職員と 2 億 5,000 万米ドルの年次予算を管理し、2010 年には、オーストラリア東部でのイナゴの異常発生に対応して甚大な被害を食い止めました。また昨年は、大洪水の被害を受けた農村の迅速な復興に努めました。元ローターアクターそして元インターアクターでもあるスカーリットさん。農業科学と開発の分野で数々の賞の受賞歴があります。「国際親善奨学生時

代、どんなに大きな問題も国際的な協力によって解決できることを学びました。食糧確保であれ、環境であれ、私の仕事の根底には、人々の生活をより良くしたいという気持ちがあります。それを教えてくれたのは、ロータリーです」

ドイツの学友会が表彰される

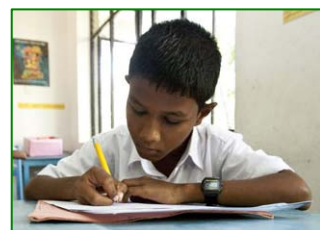
ドイツの学友会に、2011-12 年度最優秀学友会賞が贈られました。1998 年に設立された同学友会は、学友とロータリーとの絆を強めることに力を注ぎました。「私たちがロータリーの貴重な一員であることを認めてもらえた気がします。この賞をきっかけに、学友会の存在をロータリアンに知っていただけることを願っています」と、会長のサエンガーさんは話します。国際的な人道プロジェクトも実施しているこの学友会は、自分たちで設置した基金を通じて、5 年ごとに独自の奨学金を提供しています。また、2010-11 年度には、コスタリカでの水プロジェクトのために 13,500 米ドルの募金に成功したほか、コンゴ民主共和国での井戸の設置や、津波で被災した日本の学校の支援も行いました。

また、同学友会が毎年開催している国際イベントには、世界中の学友が出席でき、学友間の協力や文化活動に関するワークショップが行われます。

「当学友会の成功は、若き奨学生たちに対するロータリアンからの惜しみない支援が、確実に実を結んでいることの証です」とサエンガーさん。「ボランティアとして参加し、研究グループ交換チームメンバー、平和フェロー、国際親善奨学生としてお世話になった私たち学友は、ロータリーに対して感謝の気持ちと情熱を抱いています。学友は、ロータリーの未来の貴重な人材です」

ロータリアンは、識字利率向上という難題に引き続き取り組んでいます。

学校や教材の不足、不十分な教育予算、女性が教育を受けることへの偏見など、識字問題は、単に読み書きができないことにとどまりません。読み書きのできない大人たちは、急速に複雑化していく世界から取り残され、社会の底辺での生活を余儀なくされます。



ロータリアンたちは、この状況の改善を目指して、今日も力を尽くしています。この数十年間、世界中のロータリークラブが識字プロジェクトを実施してきたばかりでなく、ロータリーは基本的教育と識字率の向上を重点分野の一つとして位置付けています。

これまでもロータリーは、スリランカやハイチの天災で倒壊した学校の再建、ブラジルやトルコで集中言語教授法の手法を採用した識字教育、ドリーウッド財団とのパートナーシップによる早期読書推進を初めとする、識字推進活動を展開してきました。